

# 海難の現況と対策

～ A I S の活用～

---

第七管区海上保安本部

交通部安全課

平成27年7月

## 船舶事故の発生状況

全国的に社会的反響が大きかった衝突事故事例

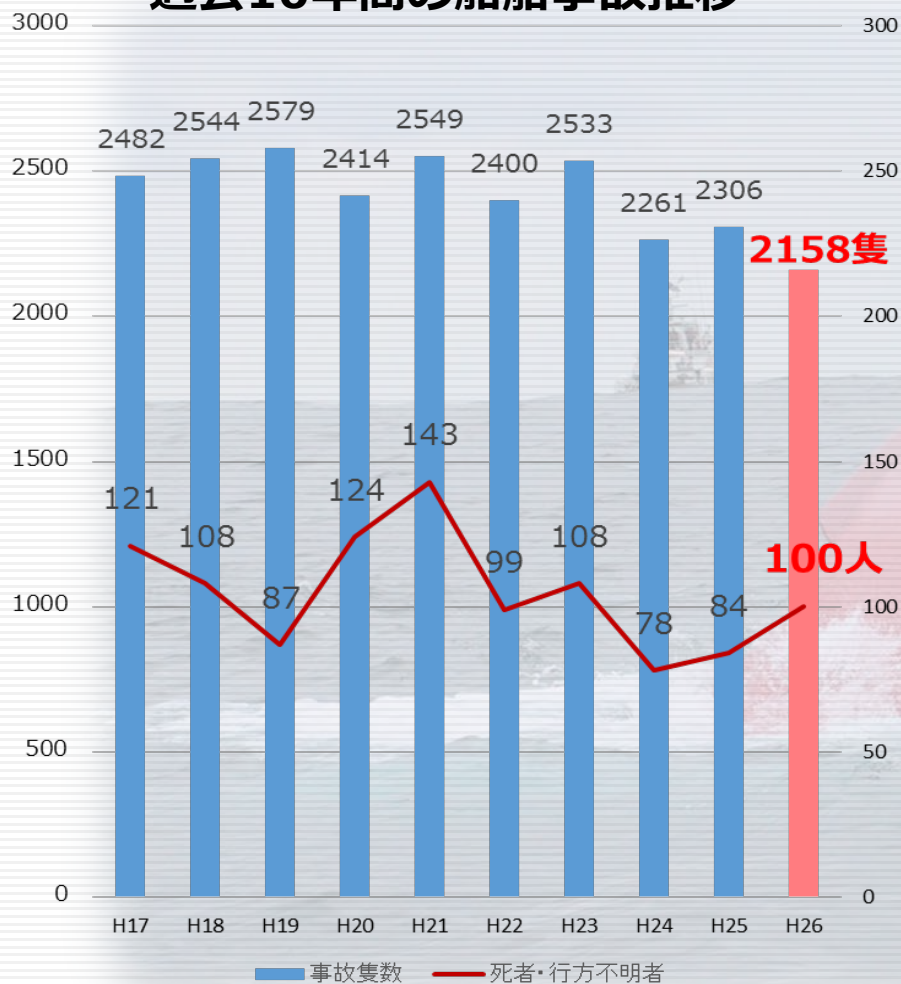
なぜ衝突事故が発生したのか？

衝突事故の防止策

他の地域での主な取り組み例

海の事故ゼロキャンペーン

## 過去10年間の船舶事故推移



山口県北西部～九州北部は、航行時、特に注意を要する海域

385隻  
七管区

146  
十管区

101  
十一管区

133  
八管区

352  
六管区

249  
五管区

136  
四管区

92  
九管区

128  
一管区

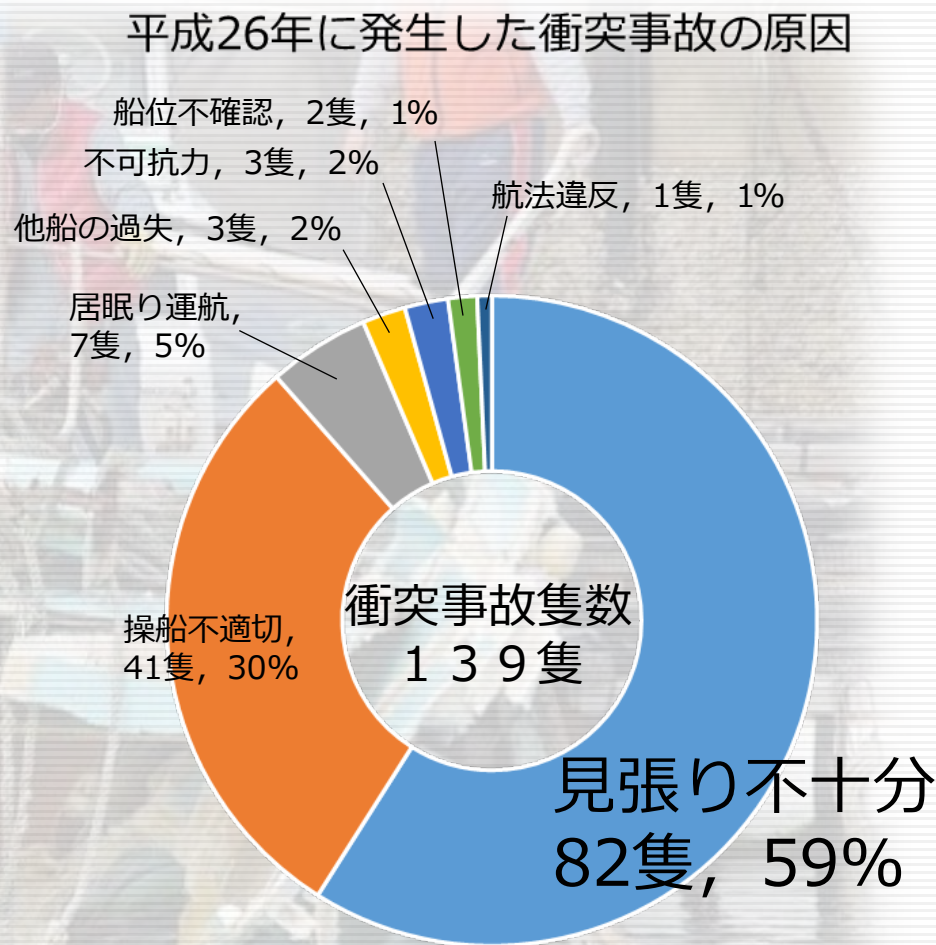
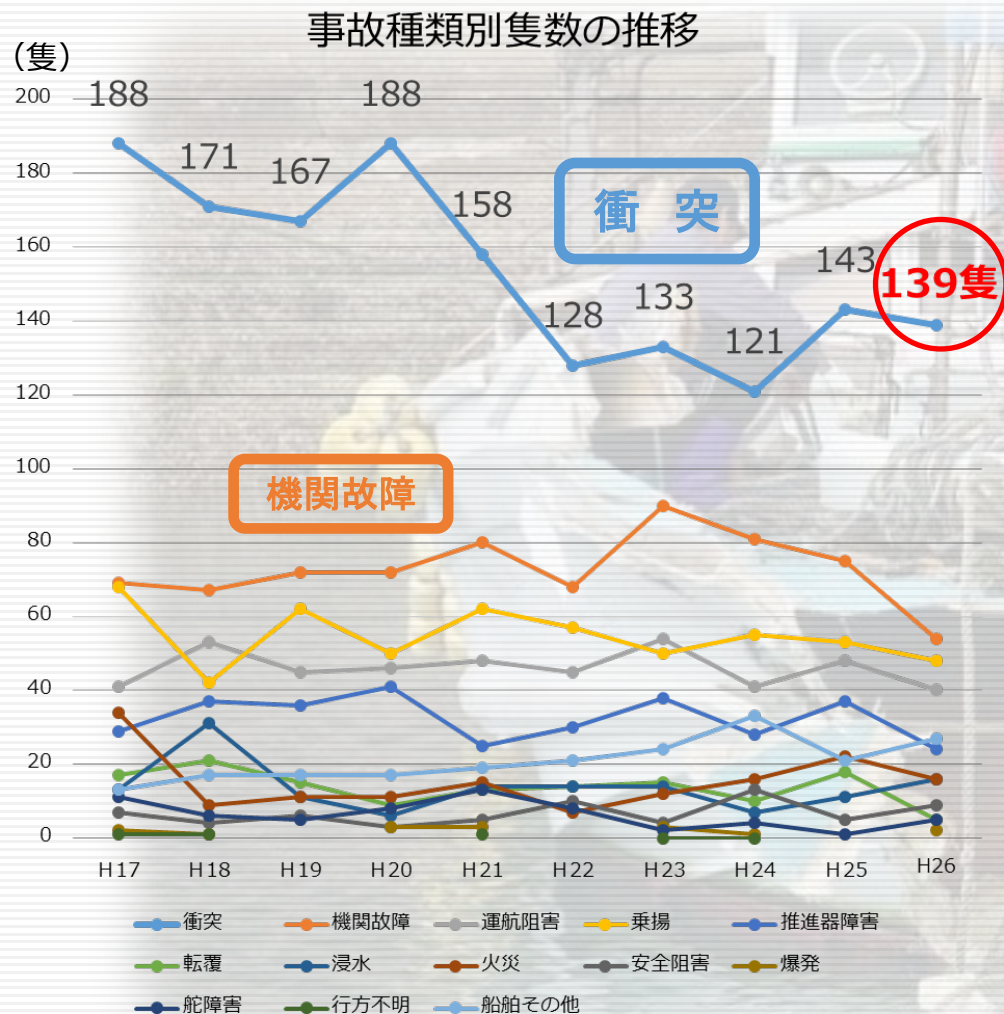
130  
二管区

302  
三管区

その他：4隻

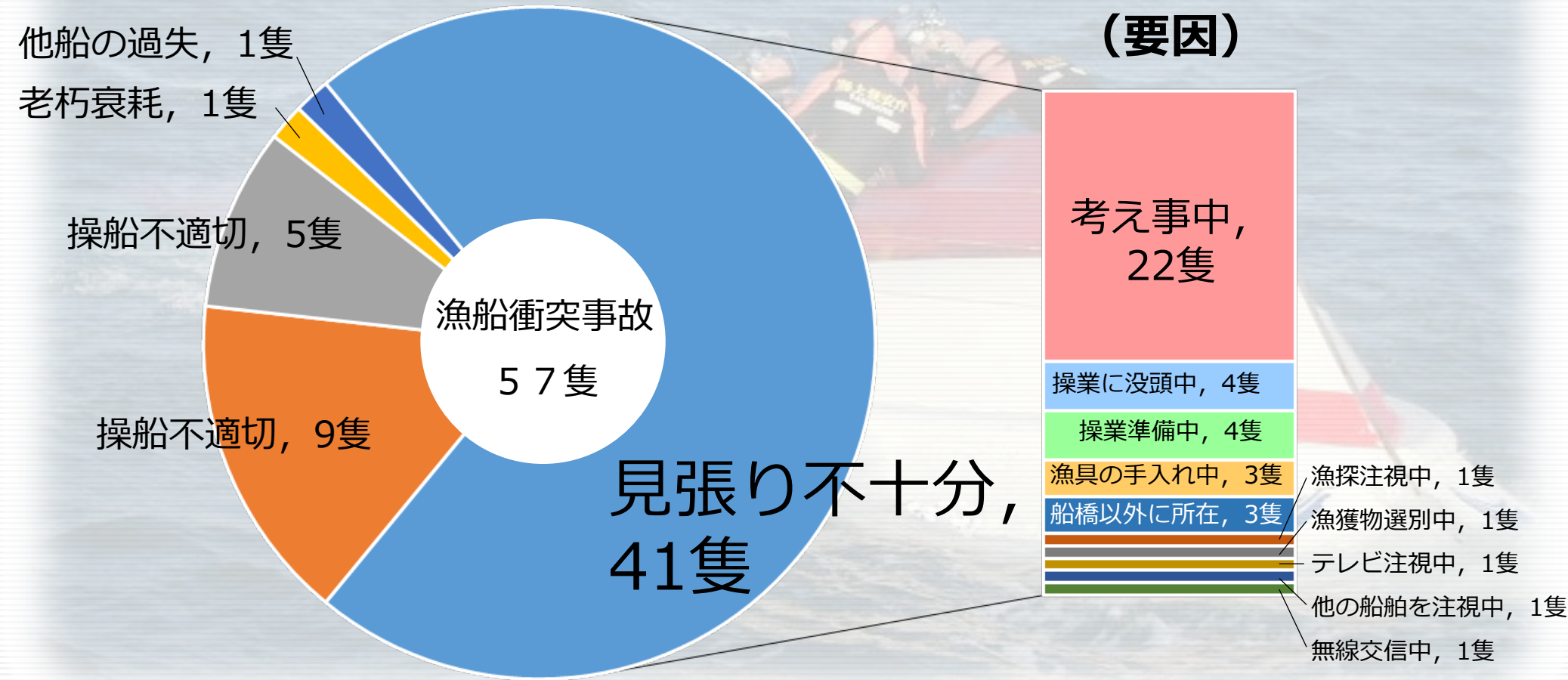
海域別の船舶事故発生状況（平成26年）

- 船舶事故は全国的に減少傾向で過去10年間で最少
- 山口県北西部～九州北部の周辺海域は、在籍する船舶や関門海峡を航行する船舶等が多く、船舶事故が多発 ⇒ 航行時には特に注意を要する海域



- 衝突事故は減少傾向にあるが、過去10年間、事故種類別において**最も多く発生**
- 衝突事故の原因は、**見張り不十分が約6割**

## 漁船衝突事故の原因とその要因



➤ 衝突原因で最も多い**見張り不十分**の要因は、5割が**考え事中**



平成24年9月、宮城県金華山の東方沖約500海里付近において、航行中のカツオ一本釣り漁船（119トン）と鹿児島県からカナダ向け航行中の貨物船（約2万5千トン）が衝突、漁船は転覆し、乗組員21名中13名が行方不明となった。



平成25年6月、宮城県金華山の南東約160海里付近において、漁場向け航行中のマグロはえ縄漁船（19トン）と東京湾からパナマ向け航行中の自動車運搬船（約5万8千トン）が衝突、漁船は船体が中央部で分断され、乗組員9名中1名が行方不明となった。

## 衝突事故防止対策の基本

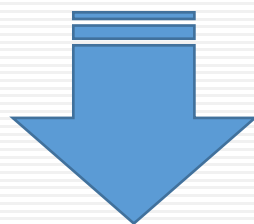
- 常時適切な見張り
- 船舶間コミュニケーション  
(早めに相手船にわかりやすい動作、VHFや汽笛信号等の活用など)

## 十分に見張りを行わなかった主な理由 (平成26年の衝突事故)

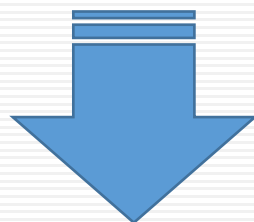
- 相手船が避けてくれると思った。
- 海図台での作業に没頭していた。
- 食事をするため。 (漂泊中、見張り交代せず船橋が無人)

# ベテランの操船者でもミスは発生

(平成26年の衝突事故139隻中、8割以上の操船者が10年以上の乗船経験あり)



## 操船者を補助するシステムを推奨



**船舶自動識別装置 (AIS) の活用**



## 船舶自動識別装置 (AIS)

AISとは、船舶の位置、針路、速力等の安全に関する情報を、自動的に送受信するシステム

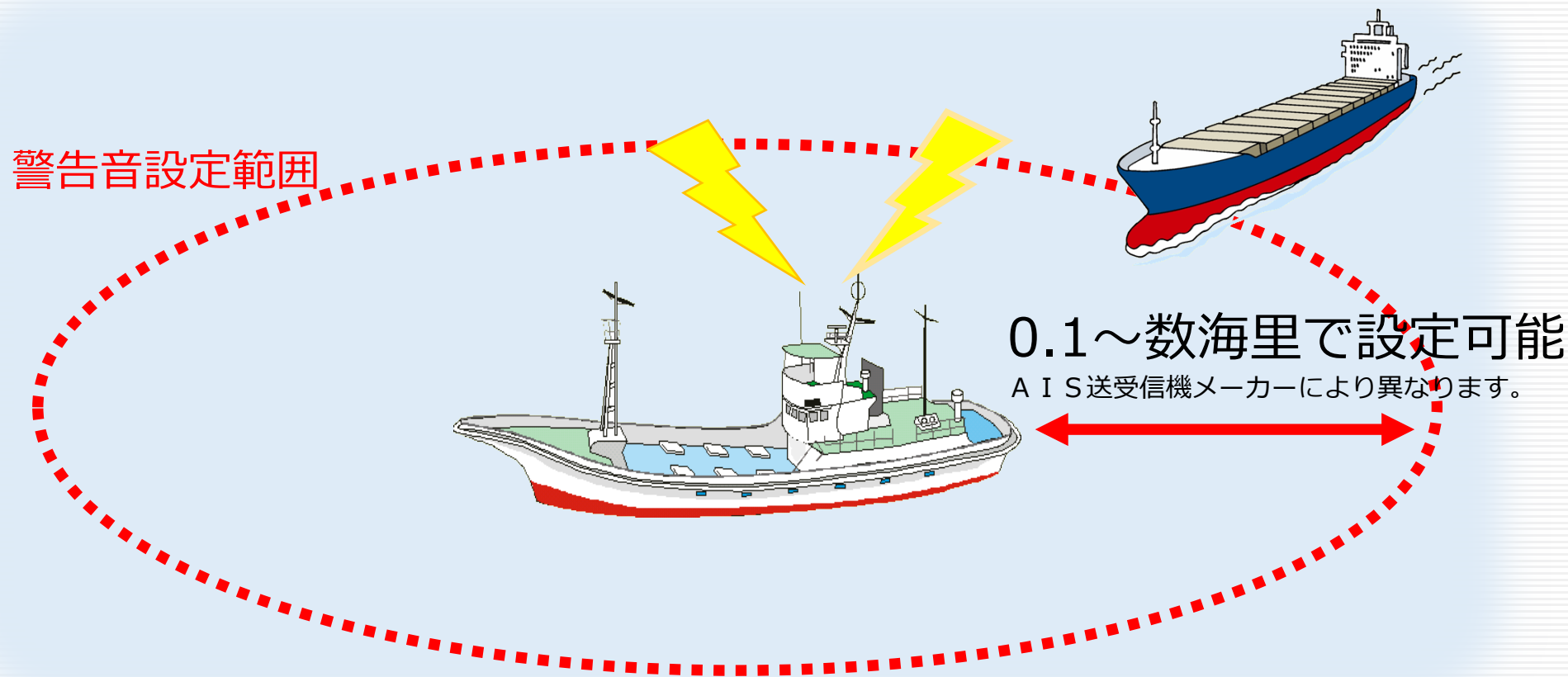


### ※搭載義務船

- ・ 国際航海に従事する300総トン数以上の全ての船舶
- ・ 国際航海に従事しない500総トン数以上の全ての船舶
- ・ 国際航海に従事する旅客船

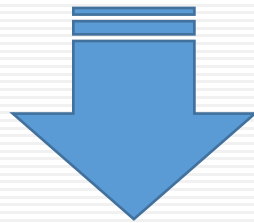
## A I S 送受信機の**衝突警報機能**を活用した衝突予防

(他のA I S 搭載船が自船に接近した場合に警告音で通知)



- **どんなに良いシステムを装備しても使う人の**安全意識**が低いと事故防止に繋がらない**

(衝突警報機能のアラーム音をOFFなど)



- **個人又は団体が自ら**安全意識の向上**に取り組むことが必要**

## ➤ 気仙沼遠洋漁業協同組合（宮城県気仙沼市）

宮城県東方沖合いで多発した漁船と外航貨物船との衝突事故を踏まえ、遠洋・近海漁船に対する衝突事故防止対策として簡易型 A I S の搭載を呼びかけた結果、同漁協が、所属する全 33 隻の漁船に簡易型 A I S を搭載。

## ➤ 宮城県

主に外洋で操業及び航行する漁船（カツオ、マグロ漁船約 200 隻）に対し衝突事故防止対策として簡易型 A I S の搭載を呼びかけた結果、平成 26 年度末までに 52 隻が設置又は設置を検討。

# ～海の事故ゼロキャンペーン～

2015 7/16▶31 全国海難防止強調運動

## 重点事項 1 見張りの徹底及び船舶間コミュニケーションの促進

海の事故で一番多いのが衝突、その主な原因は「見張り不十分」や「不適切な操船」です。

### 1 常時適切な見張りの徹底

「居眠り運転」や自動操舵任せで見張りをおろそかにせず、常時適切な見張りを行いましょう。

### 2 船舶間コミュニケーションの促進

早期に船舶間のコミュニケーションを図り、相手船の動きを把握することで、適切な操船を行いましょう。

● 早めに相手船にわがや  
やしい動作をとる

● 国際 VHF や汽笛信号などを活用する

● AIS 情報の活用と正しい情報の入力

なんといっても見張りが重要です!!

## 重点事項 2 プレジャーボートの発航前点検の徹底

発航前点検をしっかりと!!

プレジャーボートによる事故は全体の4割以上、特にエンジントラブルによるものが増えています。

- 燃料
- エンジンオイル
- バッテリー電圧
- 冷却水 など

の発航前点検を確実にしましょう。

## 重点事項 3 ライフジャケットの常時着用等自己救命策の確保

万が一海に転落した場合、①海上に浮く②速やかに救助要請という2点が必要不可欠です。



1 ライフジャケットの常時着用

2 連絡手段の確保

3 海のもしもし 118番 海の緊急通報

海上保安庁へのお問い合わせは、最寄りの官署へ

- 第一管区 海上保安本部 (小樽) 電話 0134-27-0118
- 第二管区 海上保安本部 (塩釜) 電話 022-363-0111
- 第三管区 海上保安本部 (横浜) 電話 045-211-1118
- 第四管区 海上保安本部 (名古屋) 電話 052-661-1611
- 第五管区 海上保安本部 (神戸) 電話 078-391-6551
- 第六管区 海上保安本部 (広島) 電話 082-251-5111
- 第七管区 海上保安本部 (北九州) 電話 093-321-2931
- 第八管区 海上保安本部 (興鶴) 電話 0773-76-4100
- 第九管区 海上保安本部 (新潟) 電話 025-285-0118
- 第十管区 海上保安本部 (鹿児島) 電話 099-250-9800
- 第十一管区 海上保安本部 (那覇) 電話 098-867-0118



# 海の事故ゼロ キャンペーン

海では安全が一番大事。  
海の事故ゼロ目指しよう!!  
2015年度 日本橋の日  
大河南都子

2015 7/16 ▶ 31  
全国海難防止強調運動

# ご清聴ありがとうございました